

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び改善方策について(小6・中3)

市内の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成30年4月17日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下は、その集計結果です。

【実施教科】

小6…国語、算数、理科の3教科
 中3…国語、数学、理科の3教科

【実施内容】

国語A・算数A・数学A…主として「知識」に関する問題
 国語B・算数B・数学B…主として「活用」に関する問題
 理科……………主として「知識」・「活用」に関する問題

児童生徒質問紙、学校質問紙・・・生活習慣や学習環境等に関する学習状況調査

【用語解説】


※A問題(主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能などを中心とした出題

※B問題(主として「活用」に関する問題)

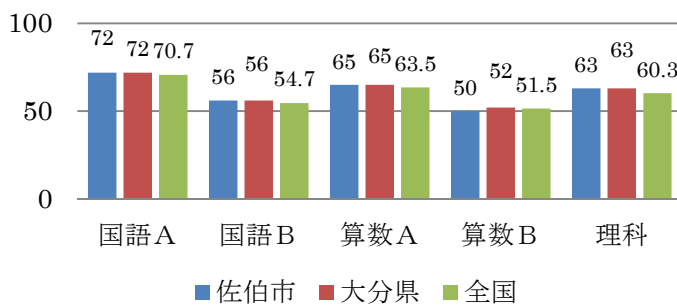
知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合)[%]の全体比較】

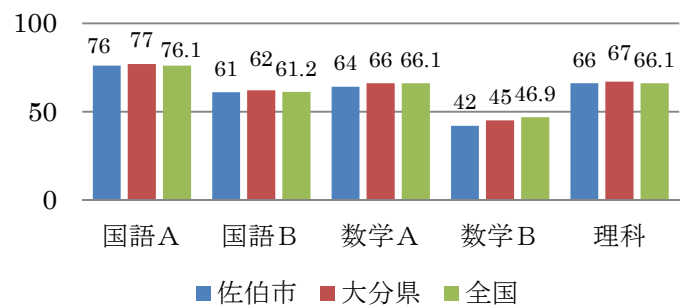
は全国平均以上

	小学校6年生					中学校3年生				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
佐伯市	72	56	65	50	63	76	61	64	42	66
大分県	72	56	65	52	63	77	62	66	45	67
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

H30年度 平均正答率の比較(小)



H30年度 平均正答率の比較(中)



<結果概況>

- 小学校では、国語A・国語B・算数A・理科で全国の平均正答率を上回ったが、算数Bは1.5ポイント下回った。
- 中学校では、国語A・国語B・理科で全国の平均正答率と同程度であったが、数学Aは2.1ポイント、数学Bは4.9ポイント下回った。
- 昨年度は、小学校では全国の平均正答率を上回ったのが1科目(国語A)だったが、今年度は4科目で上回る結果となった。中学校は、昨年度も今年度も数学が平均正答率を下回っている。

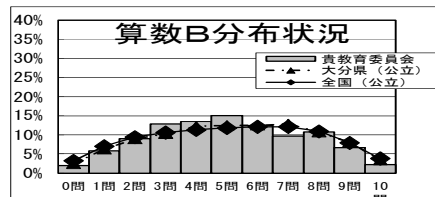
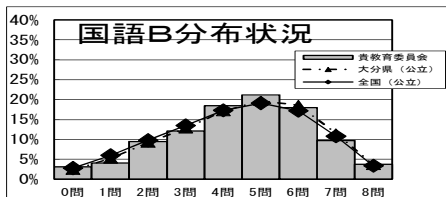
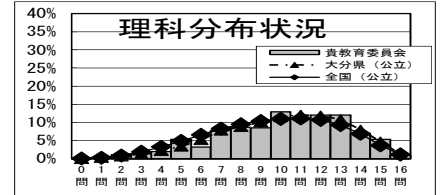
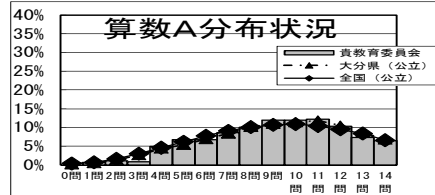
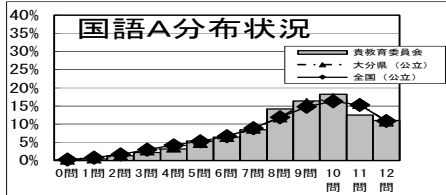
<課題と対策>

- 小学校の算数B、中学校の数学A・数学Bが全国の平均正答率を下回ったことから、算数・数学科の内容の定着(特に活用的な内容)に課題のあることがわかる。算数・数学の授業の単元構想をしっかりと描きながら、「付けたい資質・能力」を着実に身に付けてさせるような授業改善を目指していく必要がある。また、大分県教育委員会が示している「数学の学習で説明する力を伸ばす基本形(例)」「言語能力育成ハンドブック」を活用する等、説明の順序や内容についての具体的な指導が必要である。

平成30年度全国学力学習状況調査概況(小学校)

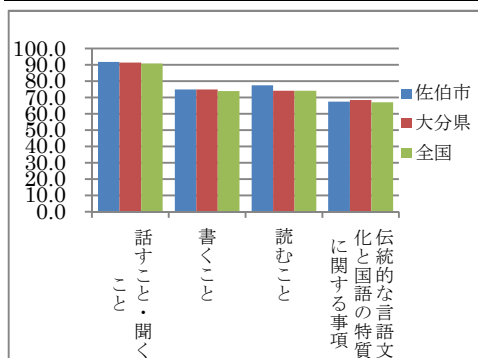
H30.4.17実施

	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率
佐伯市	8.6/12	72	4.5/8	56	9.1/14	65	5.0/10	50	10.1/16	63
大分県	8.6/12	72	4.5/8	56	9.1/14	65	5.2/10	52	10.1/16	63
全国	8.5/12	70.7	4.4/8	54.7	8.9/14	63.5	5.1/10	51.5	9.6/16	60.3



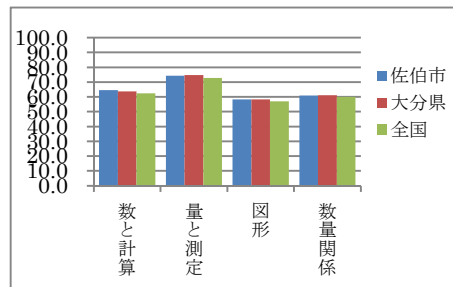
小6国語A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	91.7	91.4	90.8
書くこと	74.8	74.8	73.8
読むこと	77.4	74.0	74.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.4	68.3	67.0



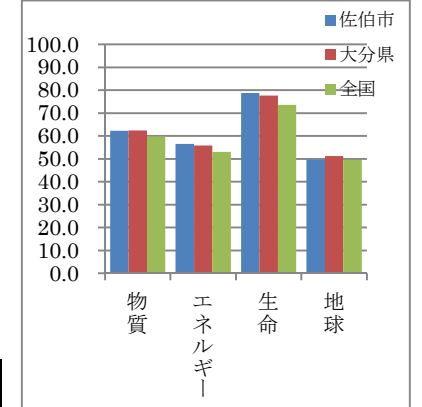
小6算数A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	64.5	63.6	62.3
量と測定	74.4	74.8	72.7
図形	58.2	58.4	56.9
数量関係	60.9	61.2	60.1



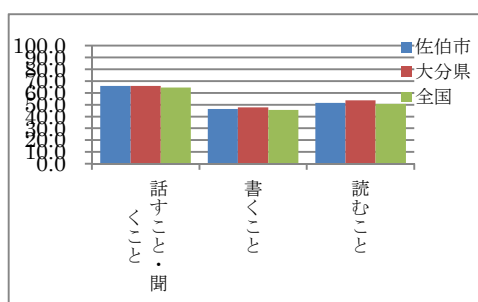
小6理科 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
物質	62.3	62.4	59.8
エネルギー	56.5	55.8	53.1
生命	78.7	77.6	73.6
地球	49.7	51.2	49.5



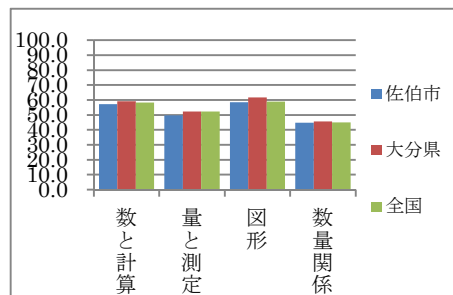
小6国語B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	65.8	65.9	64.6
書くこと	46.4	47.6	45.6
読むこと	51.6	53.6	50.8



小6算数B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	57.2	59.2	58.4
量と測定	49.7	52.3	52.4
図形	58.6	61.7	58.9
数量関係	44.9	45.6	45.1

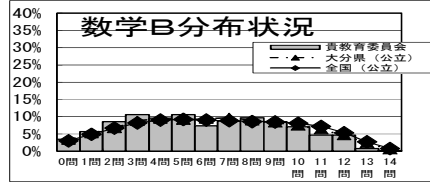
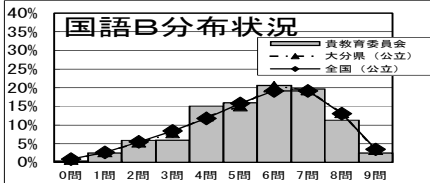
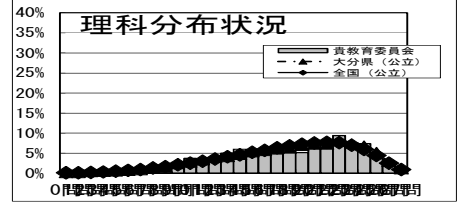
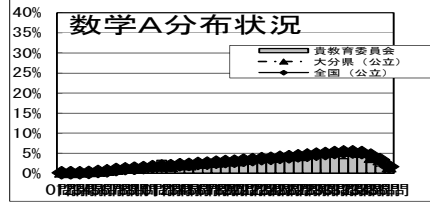
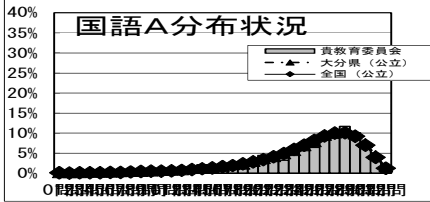


は全国平均以上

平成30年度全国学力学習状況調査概況(中学校)

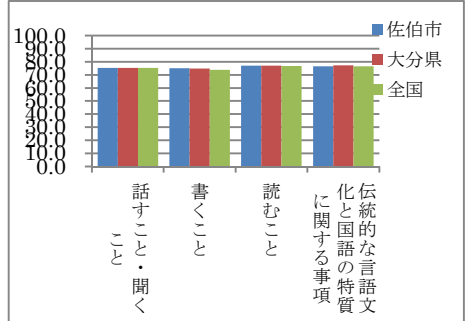
H30.4.17実施

	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率
佐伯市	24.4/32	76	5.5/9	61	23.2/36	64	5.9/14	42	17.8/27	66
大分県	24.5/32	77	5.5/9	62	23.9/36	66	6.3/14	45	18.1/27	67
全国	24.3/32	76.1	5.5/9	61.2	23.8/36	66.1	6.6/14	46.9	17.9/27	66.1



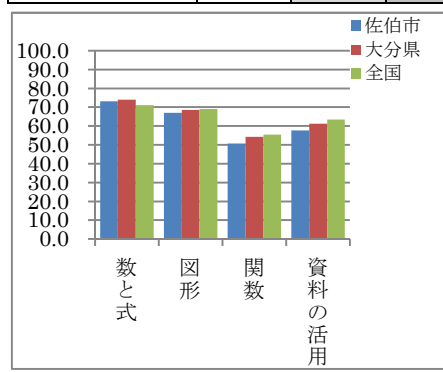
中3国語A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	75.4	75.2	75.2
書くこと	75.0	74.8	73.9
読むこと	76.9	77.1	76.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5	77.2	76.5



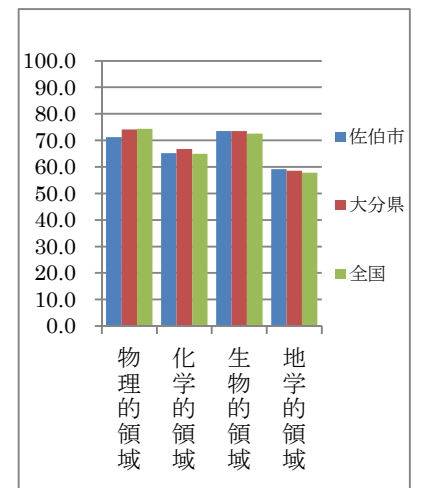
中3数学A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	73.2	74.0	71.1
図形	67.1	68.5	69.1
関数	50.7	54.2	55.5
資料の活用	57.7	61.3	63.5



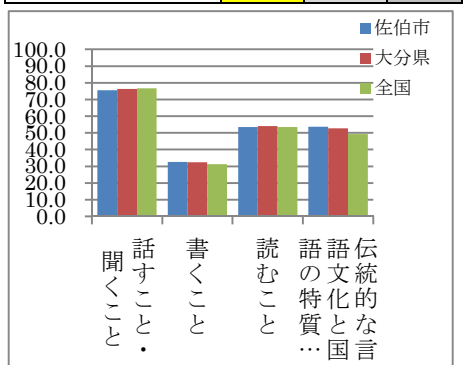
中3理科 平均正答率(%)

分野	領域	佐伯市	大分県	全国
第1分野	物理的領域	71.2	74.1	74.4
	化学的領域	65.2	66.8	65.0
第2分野	生物的領域	73.5	73.5	72.5
	地学的領域	59.1	58.6	57.8



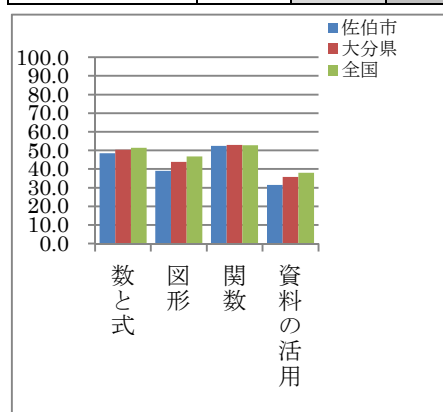
中3国語B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	75.5	76.3	76.6
書くこと	32.6	32.4	31.3
読むこと	53.5	54.1	53.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.7	52.7	49.2



中3数学B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	48.4	50.4	51.4
図形	39.1	43.8	46.7
関数	52.4	53.0	52.8
資料の活用	31.5	35.7	38.0



は全国平均以上

小学校国語

佐伯市の平均正答率	72%
大分県の平均正答率	72%
全国の平均正答率	70.7%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数12問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・5問(大分県4問、全国4問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・8問(大分県10問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・3問(大分県3問、全国3問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・4問(大分県2問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆5 【春休みの出来事の一部】の中で、_____部と_____部のつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。(全国比-2.6%・32.9%)
→主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある。
- ◆7 【話を聞いている様子の一部】の「ア」や「イ」に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する。(全国比-1.3%・54.7%)
→相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。
- ◆8エ・オ 文の中で漢字を使う。(かん理-「管」 全国比-1.5%・63.5%) (せつ極的-「積」 全国比-6.8%・44.6%)
→学年別漢字配当表に示されている感じを文の中で正しく使うことに課題がある。

②具体的な改善方策

- 文の中における主語と述語の関係などに注意して、書いた文章を読み直したり書き直したりする習慣を身に付けさせる。
 - ・主語と述語の関係を理解できるようにする。「だれが(なにが)」～「どうする・どんなだ・なんだ」
 - ・主語と述語の照応関係に気をつけながら、書いた文書を読み直す習慣を付けるようにする。
 - ・正しく書く必要のある学習場面を活用し、意識することができるようにする。
- 相手や場面に応じて、適切に敬語が使えるように指導する。
 - ・日常生活の人との関わりの中で、敬語の果たす役割やその必要性について理解させる。
 - ・相手や場面に応じた敬語の使い方が理解できるようにする。
 - ・日常生活の中で目上の人に接する時などを想定し、会話や礼状などで敬語を使うことに慣れるようにする。
- 漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する。
 - ・漢字習得のための練習とともに、漢字を取り立てて指導する時間を設定する、授業時間のはじめに漢字の書きを練習する、家庭学習で漢字の書きの練習をさせるなど、習得のための手立てを学校全体で行っていく。
 - ・同音異義の漢字等に注意しながら文を作り、それぞれの漢字の意味を確認する。

小学校国語

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	56%
大分県の平均正答率	56%
全国の平均正答率	54.7%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数8問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・5問(大分県5問、全国5問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・5問(大分県7問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・3問(大分県2問、全国3問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・3問(大分県1問)

① 学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【話すこと・聞くこと】

- ◆1三 これから言葉をどのように使っていきたいかについて、二人の意見のいずれかを取り上げ、決められた長さの文(80~100文字)で書く。(全国比-2.3%・31.5%)
→話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。

【書くこと】

- ◆2三 【紹介する文章】を基にして、【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する。(全国比-0.3%・70.5%)
→紹介するためには、ほかのものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉えることに課題がある。

【読むこと】

- ◆3一 山下さんがどのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する。(全国比-1.9%・47.5%)
→目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことに課題がある。

② 具体的な改善方策

○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる習慣を身に付けさせる。

- ・聞き手が自分の考えをもって話し合いに臨むことができるよう、事前の指導を工夫する。
- ・メモを取りながら聞くことができるように指導する。
- ・相手の意見との共通点や相違点を整理するなど、考えのまとめ方を具体的に示し、理解させる。

○複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係付けて理解したり表現したりする活動を位置付ける。

- ・複雑な事柄を分解して捉え直したり、必要な語句を見つけて図示しながら整理して考えることができるように指導する。
- ・調べて分かった事柄や事実、自分の考えが明確に伝わるかどうかを意識させる。
- ・低学年のときから、複数の情報を関係付けて考える機会を意図的に設定する。

○目的に応じて、複数の本や文章などを選んで効果的に読む学習を設定する。

- ・本、新聞や雑誌、インターネットなどから、目的に応じて適切な資料を選んで読むことができるよう指導する。
- ・書き手の異なる伝記を読み比べる機会を設定し、人物の生き方や考え方を深く知ることができるということを実感できるように指導する。

小学校算数

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	65%
大分県の平均正答率	65%
全国の平均正答率	63.5%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・2問(大分県2問、全国2問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・10問(大分県11問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・4問(大分県5問、全国6問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・4問(大分県3問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と計算】【数量関係】

- ◆1(3) 針金1mの重さを求める式を選ぶ。(全国比-0.9%・64.4%)
→乗法を選択した誤答が26.8%であったことから、1に当たる大きさを求める問題場面では除法を用いること、また、除数が1より小さい小数である場合でも除法を用いることについての理解に課題がある。
- ◆8 200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ。(全国比-0.9%・52.0%)
→百分率を求めることに課題がある。

【量と測定】

- ◆4(2) 2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ。(全国比-1.5%・48.6%)
→単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味についての理解に課題がある。

【図形】

- ◆7(1) 円周率を求める式として正しいものを選ぶ。(全国比-3.3%・38.3%)
→円周率の意味についての理解に課題がある。

②具体的な改善方策

○問題場面を的確に捉え、計算の意味の理解と演算決定ができるようにする。

- ・1に当たる大きさを求める問題場面では、除法を用いることを理解させるとともに、今回のように除数が1より小さい小数である場合でも除法を用いることを確認し、定着を図っていく。
- ・百分率を求めるには基準量と比較量を正しく捉える力を身に付ける必要がある。
- ・数量の関係を図や数直線に表す活動などを意図的に設定し、式の意味を理解させていく。

○作業的・体験的な活動を通して、図形についての理解を図るようにする。

- ・身の回りのものの直径と円周の長さの測定を通して円周率の意味を理解させるなど、作業的・体験的な活動を充実させる。

小学校算数

佐伯市の平均正答率	50%
大分県の平均正答率	52%
全国の平均正答率	51.5%

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数10問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・2問(大分県2問、全国2問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・4問(大分県7問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・5問(大分県5問、全国5問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・6問(大分県3問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【量と測定】【図形】

- ◆1(2) 一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く。(全国比-6.8%・41.4%)
→図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述することに課題がある。

【数量関係】

- ◆3(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く。(全国比-3.0%・17.7%)
→メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することに課題がある。

【数と計算】

- ◆4(2) 横に並んでいる7つの数について、示された表現方法を適用して書く。(全国比-1.9%・57.7%)
→示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することに課題がある。
- ◆5(1) 横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く。(全国比-4.5%・38.7%)
→折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述することに課題がある。
- ◆5(2) 4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ。(全国比-2.0%・64.5%)
→折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することに課題がある。

②具体的な改善方策

○算数の言葉や式を用いて、自分の考えを記述することができるようにする。

- ・5問の記述式問題の全てで正答率が全国を下回っており、無解答率もいずれも全国より高いことから、授業の中で自分の考えを説明したり、記述したりする機会を増やす必要がある。
- ・数量や図形、数量関係を考察して見いだした「事実」、問題を解決するための「方法」、判断や考えの「理由」のいずれかを記述させようとしているのかを意識して、活動を設定していく。
- ・低学年のうちから、児童自らが言葉や式で一般化して表現しようとする態度を育てていく。また、そのことが、自分の考えを相手にわかりやすく説明したりわかりやすく伝え合ったりする上で有用であると実感できるようにする。

○情報の関連付けと解釈・表現及び判断の力を高めていく。

- ・グラフとメモ等の複数の情報から必要な情報を整理することができるようにする。
- ・複数の情報を関連付けて解釈し、判断の理由を言葉や数を用いて記述できるようにする。

小学校理科

問題の分析

佐伯市の平均正答率	63%
大分県の平均正答率	63%
全国の平均正答率	60.3%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数16問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・7問（大分県6問、全国6問）
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・14問（大分県12問）
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・4問（大分県4問、全国5問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・2問（大分県4問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【地球】

- ◆2(3) 一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。(全国比-5.5%・14.6%)
→より妥当な答えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察することに課題がある。

【エネルギー】【地球】

- ◆3(4) 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の一日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ。(全国比-2.2%・39.7%)
→太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適応することに課題がある。

②具体的な改善方策

○観察や実験の結果を整理し考察して、まとめることができるようにする。

- ・理科の授業の「観察や実験の結果を整理し考察する」活動についての児童質問紙及び学校質問紙の回答を見ると、いずれも全国・県に比べて、活動が充実していないという実態があった。観察や実験から得られた事実を解釈する学習過程を充実させる必要がある。
- ・複数の情報を収集して児童同士が共有し、それを関係付けた話し合いを重視した学習活動を意図的に設定していく。自分の力で結論を導き出して、「事実」と「解釈」を整理してまとめる経験を繰り返すことで、論理的な思考力・表現力を高めたい。
- ・学んだことを基にしたものづくりへの適用など、自分の知識や経験と結びつけた作業的・体験的な活動も取り入れるようにする。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	76%
大分県の平均正答率	77%
全国の平均正答率	76.1%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数32問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・15問(大分県15問、全国15問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・16問(大分県22問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・2問(大分県2問、全国4問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・16問(大分県10問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【話すこと・聞くこと】

- ◆6-1 話し合いの際のメモの取り方の説明として適切なものを選択する。(全国比-1.0%・71.4%)
→話し合いの話題や方向を捉えることに課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆8-3ア 適切な語句を選択する。(立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった。)(全国比-3.1%・74.6%)
→四字熟語の意味の理解や、文脈に即して使うことに課題がある。
- ◆8-4 2 「心を打たれた」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかがわかるように書く。(全国比-2.8%・19.5%)
→目的に応じて、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。
- ◆8-6 3 『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する。(全国比-2.4%・78.9%)
→古典に表れたものの見方や考え方を理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

○話し合いの話題や方向を捉えて適切に話すことができるようにする。

- ・司会や議長の立場で直接話し合いを進行していく場合はもとより、それ以外の立場で参加する場合にも、話し合いが議題の解決に進むように進め方を提案したり、効率よく進むように協力したりするように指導していく。
- ・話し合いの様子を動画で記録し、発言の意図や効果を考えさせるなど、学習活動を工夫していく。

○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての指導を充実させる。

- ・語感を磨き語彙を豊かにするためには、語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用できるように指導していく。
- ・文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導していく。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	61%
大分県の平均正答率	62%
全国の平均正答率	61.2%

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数9問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・4問(大分県3問、全国3問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・5問(大分県6問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・2問(大分県2問、全国3問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・4問(大分県3問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【読むこと】

- ◆1一 グラフからわかることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する。
(全国比-4.8%・41.1%)
→文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに課題がある。
- ◆1二 複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する。
(全国比-2.8%・61.5%)
→文章の構成や展開について自分の考えをもつことに課題がある。
- ◆1三 「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。
(全国比-18%・1.5%)
→目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。

【話すこと・聞くこと】

- ◆2三 ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する。
(全国比-3.5%・51.1%)
→全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことに課題がある。

②具体的な改善方策

○「読むこと」についての指導を充実させる。

- ・文章と図表との関係を考えながら内容を捉えて読むことができるようにする。それぞれの図表などが文章のどの部分と関連しているのかを意識させるとともに、書き手が図表などを用いた意図や読み手に与える効果について考えさせていく。
- ・同じテーマで書かれた複数の説明的な文章を比較しながら読み、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつなどの学習活動を設定する。
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導していく。

○全体と部分との関係に注意して、相手の反応を見ながら話すことができるようにする。

- ・説明や発表などをする際には、話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく組み立てるために各部分をどのように組み立てるかを考えるように指導する。
- ・実際のスピーチの場面などを設定し、聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それらを踏まえながら話す活動を設定していく。

中学校数学

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	64%
大分県の平均正答率	66%
全国の平均正答率	66.1%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数20問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・6問(大分県7問、全国6問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・11問(大分県18問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・17問(大分県14問、全国11問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・25問(大分県18問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【図形】

- ◆4(1) ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ。(全国比-8.0%・59.1%)
→ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることについての理解に課題がある。
- ◆7(1) $\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ。(全国比-7.7%・64.3%)
→2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係についての理解に課題がある。
- ◆8 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ。(全国比-8.0%・37.5%)
→証明の必要性と意味の理解に課題がある。

【関数】

- ◆10 点(-2, 3)の位置を座標平面上に示す。(全国比-9.5%・60.4%)
→座標平面上に点の位置を示すことに課題がある。
- ◆11(1) 一次関数 $y = 2x + 7$ について x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める。(全国比-5.5%・39.8%)
→一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることに課題がある。
- ◆11(2) 一次関数 $y = 2x + 6$ が表すグラフを選ぶ。(全国比-6.2%・50.1%)
→一次関数 $y = ax + b$ について、 a の値と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題がある。

【資料の活用】

- ◆15(1) 一枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ。(全国比-5.7%・34.5%)
→多数回の試行の結果から得られる確率の意味の理解に課題がある。
- ◆15(2) 大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める。(全国比-12.0%・59.3%)
→表などを利用して、確率を求めることに課題がある。

②具体的な改善方策

- 図形の学習で用いる基本的な用語の意味やその概念、成立する条件などがわかるようにする。
 - ・「線対称」「対頂角」などの基本的な用語の意味や性質、2つの三角形が合同であるための条件などについて、作図や操作などの作業的な活動を通して理解させていく。
 - ・証明の必要性や意味を理解させるため、帰納的に調べることで成り立つと予想される事柄を考える場面を設定していく。
- 一次関数とグラフについての基本的な内容がわかるようにする。
 - ・点の座標平面上への示し方や一次関数の増加量の求め方については、基本的な内容から復習していく必要がある。
- 「ある試行を多数回繰り返したとき、全体の試行回数に対するある事象の起こる回数の割合は、ある一定の数に近づく」という確率の意味がわかるようにする。
 - ・確率の意味が実感を伴って理解できるように、実験を行い、その結果を表などにまとめ、そこからわかったことを数学的に表現する活動を取り入れる。

中学校数学

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	42%
大分県の平均正答率	45%
全国の平均正答率	46.9%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・12問(大分県12問、全国12問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・1問(大分県2問)
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・9問(大分県8問、全国8問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・13問(大分県12問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【資料の活用】

- ◆1(1) 全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒の割合を求める。(全国比-5.1%・50.6%)
→与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。
- ◆1(2) 放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める。(全国比-8.7%・36.2%)
→与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることに課題がある。
- ◆1(3) 全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する。(全国比-5.8%・30.4%)
→不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することに課題がある。
- ◆5(1) S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く。(全国比-6.4%・9.6%)
→与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することに課題がある。

【図形】

- ◆4(1) 証明されたことから、新たにわかることを選ぶ。(全国比-8.7%・46.7%)
→証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことに課題がある。

②具体的な改善方策

○数学的な言葉や記号、式等を用いて、自分の考えを説明したり証明したりすることができるようにする。

- ・5問の記述式問題の全てで正答率が全国を下回っており、そのうちの4問で無解答率が全国よりも高いことから、授業の中で生徒が数学的に説明する機会を増やす必要がある。
- ・与えられた情報から必要な情報を選択したり、分類整理したりする方法について、生徒の実態に応じて指導していく必要がある。また、「事柄や事実」、「方法や手順」、「理由」のいずれを説明させようとしているのかを意識して、活動を設定していく。

○数量や確率の値などを比較することで、事象を判断することができるようにする。

- ・証明で示された事柄アンケートなどの不確定な事象の数学的な解釈と判断の際に、与えられた情報からどの部分の情報を選択して比較すればよいか、具体的な手順を示しながら確認する活動を設定していく。

○図形についての証明を振り返り、発展的に考えることができるようにする。

- ・付加された条件の下で、どのようなことが言えるかを見だし、検討する場面を設定していく。「～ならば、……になる。」等の指定された言い方で答えることを意識させることも必要である。

中学校理科

問題の分析

佐伯市の平均正答率	66%
大分県の平均正答率	67%
全国の平均正答率	66.1%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 27 問

- ◇平均正答率 70% 以上の問題・・・13 問（大分県 13 問、全国 14 問）
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・13 問（大分県 17 問）
- ◆平均正答率 50% 未満の問題・・・5 問（大分県 4 問、全国 5 問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・14 問（大分県 10 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【生物的領域】

- ◆2 (4) 理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の重量は何に関係しているかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる。(全国比－4.8%・56.5%)
→1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘することに課題がある。

【物理的領域】

- ◆6 (2) 自転車のライトの豆電球型の LED が豆電球に比べて明るく転倒したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる。
電流 (全国比－5.2%・72.0%)
→実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることに課題がある。
抵抗 (全国比－7.3%・44.6%)
→オームの法則を使って、抵抗の値を求めることに課題がある。

②具体的な改善方策

- 小学校理科で身に付けた力を活用し、科学的な探究の過程を生徒が主体的に遂行できるようにする。
 - ・問題を見いだして予想や仮説を立て、観察・実験を計画し、得られた情報を分析し、新たな疑問を発見するといった活動の流れを設定していく。
- 多角的要因が複数考えられる実験を検討し、「変える条件」に伴って変化する「変わってしまう条件」を指摘することができるようにする。
 - ・実験を行う際に、①「変化すること」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、妥当性を検討する活動や②「変える条件」と「変えない条件」に整理する活動を設定し、多面的・総合的に思考して、検討・改善することができるように指導する。
- 課題解決に必要な知識・技能を目的をもって習得できるようにする。
 - ・電流・電圧・抵抗の関係を理解し、課題解決の過程で正しく読み取ったり計算したりすることができるように指導する。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童生徒質問紙調査

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値

◎は全国値より10%以上上回る ○は全国値以上

▼は全国値未満

着色は昨年度より改善が見られるもの

【小学校】授業に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯	
19	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	◎	53.1	40.1	
27	算数の勉強は好きですか	▼	28.3	33.9	
29	算数の授業の内容はよくわかりますか	▼	35.7	42.1	
35	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	○	44.2	43.7	
36	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	○	61.4	56.8	
38	理科の勉強は好きですか	▼	44.9	52.6	
40	理科の授業の内容はよくわかりますか	▼	54.0	55.9	
49	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	▼	37.7	43.6	
50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	▼	20.0	29.4	
55	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	▼	23.6	29.1	
56	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	▼	18.1	23.5	20.9
57	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	▼	28.7	34.7	24.0

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯	
10	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼	26.2	30.7	25.3
11	家で、学校の宿題をしている	○	88.8	87.9	91.6
12	家で、学校の授業の予習・復習をしている	▼	19.0	27.7	
13	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している	○	38.6	37.5	
14	普段（月～金曜日）、1時間以上勉強する	○	72.3	66.2	68.4
15	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をする	▼	36.4	41.1	32.6

【小学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
1	自分には、よいところがあると思いますか	▼	33.2	41.2
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	○	52.3	42.5
3	将来の夢や目標を持っていますか	▼	64.3	68.2
4	学校のきまりを守っていますか	○	46.6	43.8
6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	○	74.5	74.2
20	今住んでいる地域の行事に参加していますか	▼	35.4	35.9
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	▼	23.8	26.8
22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	▼	13.5	17.3
23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	▼	34.5	36.1
24	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	○	22.0	18.1
25	新聞を読んでいますか	▼	2.5	7.4
26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	▼	54.2	57.3

【中学校】授業に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯	
19	2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	◎	43.5	31.6	
27	数学の勉強は好きですか	▼	22.5	25.7	
29	数学の授業の内容はよくわかりますか	▼	20.5	28.2	
35	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	▼	27.1	30.9	
36	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	▼	37.2	45.6	
38	理科の勉強は好きですか	○	30.3	30.0	
40	理科の授業の内容はよくわかりますか	▼	24.6	26.6	
49	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	▼	22.3	31.7	
50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	▼	17.2	20.7	
52	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	▼	21.6	26.3	
56	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	▼	12.9	16.6	16.0
57	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	▼	28.8	32.4	17.1

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯	
10	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼	15.6	16.6	16.5
11	家で、学校の宿題をしている	▼	65.5	68.5	69.4
12	家で、学校の授業の予習・復習をしている	▼	11.7	18.2	
13	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している	▼	25.3	35.1	
14	普段（月～金曜日）、2時間以上勉強する	▼	34.2	36.4	29.5
15	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をする	○	33.5	30.9	32.6

【中学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
1	自分には、よいところがあると思いますか	▼	31.0	33.7
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	○	33.6	32.5
3	将来の夢や目標を持っていますか	▼	43.0	45.3
4	学校の規則を守っていますか	▼	56.5	63.4
6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	○	71.0	70.7
20	今住んでいる地域の行事に参加していますか	▼	18.2	18.6
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	▼	19.6	20.0
22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	○	11.5	10.6
23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	◎	61.9	51.8
24	地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	○	12.6	9.2
25	新聞を読んでいますか	▼	3.7	4.9
26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	▼	51.5	52.4
41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	○	51.7	49.6

2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・「授業に関すること」「家庭学習に関すること」「学びに向かう力に関すること」の質問項目において、全国値よりも割合が低い項目が多い。特に、今回調査対象となっている数学と理科の授業において、課題解決に向けて主体的に取り組み、根拠や考察結果をまとめる活動を十分に保障することが必要である。
- ・家庭学習時間の達成度は、小・中学校ともに、昨年より割合が高くなっている。1日当たり30分以上読書をする児童生徒の割合も小・中学校ともに高くなっている。引き続き家庭と連携し、家庭学習が習熟・定着に結びつくものとなる指導していく必要がある。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

◎は全国値より10%以上上回る ○は全国値以上
▼は全国値未満
着色は昨年度より改善が見られるもの

【小学校】授業に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
12	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	◎ 52.6	39.9	63.2
13	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う	○ 21.1	16.6	
22	習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたか	▼ 26.3	26.8	36.8
23	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか	○ 26.3	23.0	10.5
24	学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか	○ 52.6	48.8	52.6
25	学習規律の維持を徹底したか	○ 63.2	61.8	68.4
26	各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができる機会を設けたか	○ 31.6	22.5	26.3
27	教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として扱ったか	◎ 36.8	22.7	42.1

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
63	保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った	○ 63.2	55.8	84.2
64	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	◎ 68.4	45.6	84.2
66	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	○ 47.4	40.4	63.2
65	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた	▼ 26.3	28.3	47.4
67	算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	○ 89.5	83.3	94.7
68	算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	○ 68.4	62.4	94.7
69	理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 21.1	8.6	
71	理科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	○ 31.6	26.7	

【小学校】教育課程に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
16	学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列している	◎ 57.9	32.9	31.6
18	教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルを確立している	◎ 57.9	34.8	26.3
19	教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせている	◎ 63.2	41.7	42.1
21	近隣等の中学校と教育課程に関する共通の取組を行っている	○ 26.3	18.7	15.8
81	言語活動について、国語科だけではなく、学校全体として取り組んでいる	○ 47.4	39.1	47.4

【中学校】授業に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
12	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	◎ 52.6	39.9	33.3
13	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う	○ 21.1	16.6	
22	習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたか	▼ 26.3	26.8	16.7
23	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか	○ 26.3	23.0	41.7
24	学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか	○ 52.6	48.8	33.3
25	学習規律の維持を徹底したか	○ 63.2	61.8	58.3
26	各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができる機会を設けたか	○ 31.6	22.5	8.3
27	教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として扱ったか	◎ 36.8	22.7	33.3

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
63	保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った	○ 63.2	55.8	33.3
64	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	◎ 68.4	45.6	50.0
66	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた	○ 47.4	40.4	41.7
65	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた	▼ 26.3	28.3	16.7
67	数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	○ 89.5	83.3	83.3
68	数学の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	○ 68.4	62.4	58.3
69	理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 21.1	8.6	
71	理科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	○ 31.6	26.7	

【中学校】教育課程に関すること

NO	項目	H30佐伯	H30全国	H29佐伯
16	学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、教育の内容を組織的に配列している	◎ 57.9	32.9	8.3
18	教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルを確立している	◎ 57.9	34.8	25.0
19	教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を効果的に組み合わせている	◎ 63.2	41.7	25.0
21	近隣等の小学校と教育課程に関する共通の取組を行っている	○ 26.3	18.7	16.7
81	言語活動について、国語科だけではなく、学校全体として取り組んでいる	○ 47.4	39.1	58.3

2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・児童・生徒質問紙に比べると、「授業に関すること」「家庭学習に関すること」で全国値を超えている項目が多くなっており、各学校の授業内容や家庭学習の充実のための取組が進んでいることがわかる。
- ・課題としては、「習熟・活用・探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫」についてで、小・中ともに、全国値に及ばなかった。今後は、「主体的・対話的で深い学び」が保障できるような1時間ごとの授業、単元全体の構成を工夫する必要がある。
また、「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」という項目で、小・中ともに全国値に及ばなかった。本市には、記述式問題への回答率が低い傾向が見られることから、授業や家庭学習でしっかりと「書く」活動に慣れさせる必要がある。
- ・「教育課程に関すること」については、小・中ともに、全国値を上回る回答が多かった。新学習指導要領で重視されている「カリキュラム・マネジメント」の視点での教育課程の見直し・改善が進んでいると思われる。今後も、近隣の小・中学校や地域社会と、教育内容の充実のための連携を深めていけるようにしたい。

今後の取組について

○重点対策校（小・中各4校）を指定し、指導主事（市教委・教育事務所）が共同して訪問指導。

（1）重点対策校の指定について

ここ数年の各種調査から、全国・県平均に達していない学校や市全体の底上げに向け波及効果が期待される学校（児童生徒数の多い学校）を総合的に勘案し、重点対策校（小・中各4校）として指定する。

（2）具体的な訪問指導

○指導主事が訪問し、学力向上や習熟の程度に応じた指導に係る取組状況、進捗状況を確認、協議し、改善点等について指導する。（危機感を持った取組）

①小学校

- ・算数の学力向上に重点を置き、2学期から訪問指導。
- ・担当校の調査を含めた課題分析を行い、管理職等と改善策を協議・確認。
- ・家庭学習の充実に向けた助言や学校の課題に応じた研修をサポートする等学校の実態に応じた指導・助言。

②中学校

- ・数学・英語の2教科の学力向上に重点を置き、訪問指導。
- ・数学：3学期に訪問指導。
- ・英語：2学期に訪問指導。

○習熟の程度に応じた指導による授業の充実、中位層、下位層への指導の徹底。

（1）習熟の程度に応じた指導について

○H30 全国調査学校質問紙から習熟の程度に応じた指導の実施状況に改善の必要がある。

・「調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に習熟の遅い(早い)グループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。(発展的な内容を扱いましたか。)」

【小学校】〔遅いグループ：未実施〕42.1% (8/19校) 〔早いグループ：未実施〕42.1% (8/19校)

【中学校】〔遅いグループ：未実施〕66.7% (8/12校) 〔早いグループ：未実施〕75.0% (9/12校) ○第

2回定期学校訪問で、習熟の程度に応じた指導による授業を参観、指導・助言する。

（2）中位層、下位層への指導の徹底について

○中位層のレベルアップを図る指導

- ・個に応じた課題（弱点補強）
- ・やや難易度の高い課題

○下位層への確実な定着を図る指導

- ・個に応じた課題（弱点補強）
- ・授業と家庭学習、補充学習の連動
- ・前学年までの内容の復習

○学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員への指導強化

○活用的な内容を単元計画（授業）に位置づけた提案授業を行い、授業改善の手法を各校に広める。

○学習内容の定着を図るための指導・改善を図り、配置校において実践する。

○「学校評価4点セット検証・改善プロセスシート」の各学校での作成・活用

○学校の検証・改善プロセスを大切にする意識の向上を図る。シートを、報告書ではなくツールとして機能させるよう助言する。